

(1) 令和2年度の1年生から3年生の比較

【考察】

多くの項目で学年が進むに従って、高い得点となっているが、いくつかの項目で2年生（平成31年度入学生）が、3年生（平成30年度入学生）よりも高い得点になっている。特に対人スキルの領域の「あいさつ、返事ができる」「相手やその場に応じた丁寧な言葉遣いができる」の項目の得点が高い。この傾向は、昨年度も同様であり、上の学年よりも高い得点だった項目が今年度以上に多く見られた。しかし、実際の生徒の様子を見たとき、この得点の高さが実態を表しているとは考えにくい。そのため昨年度のまとめでは、この学年集団は、まだ客観的な自己評価をすることが難しい生徒が多くいるのではないかと考察しており、今年度も同様のことが言えるのではないかと考える。

あいさつや返事、丁寧な言葉遣いは、授業中だけでなく、生活のいろいろな場面で指導が可能な項目である。現在の生徒1人1人の実態から、どこまでできることを目標とするのか、さらに、企業側はどこまでを求めているのかを明確にし、日々の指導を積み重ねていくことが大切である。例えば、専門教科の授業の中でできていることを他の授業や生活の中に広げていくこと、生徒の自己評価と指導者や現場実習先の他者評価とを比べ、自己理解を深めていく、といったことが考えられる。